別紙資料　阿蘇くまもと空港へのJR延伸についての記事

熊本日日新聞　（昭和17年4月1日第3種郵便物認

熊本空港へJR延伸

知事表明　豊肥線　三里木から分岐

蒲島郁夫知事は5日、熊本空港（益城町）へのアクセス改善について、JR豊肥線を延伸する方法で実現を目指す考えを表明した。三里木駅（菊陽町）から分岐し、県民総合運動公園（熊本市東区）を経由する大まかなルート案も提示。「この方針を基に、JR九州との協議を深めたい」と述べた。

【3面に関連記事】

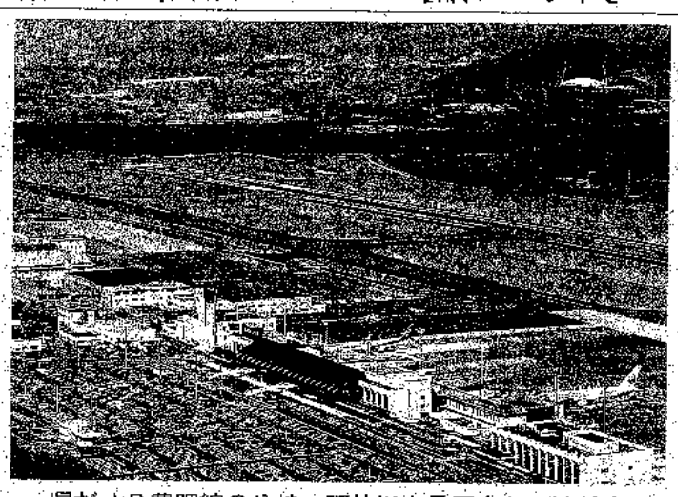
事業の枠組みは、県を中心とした第三セクターを設立して延伸部分の鉄道施設を整備し、運行をJRに委託する「上下分離」方式を想定。事業費は国の財政支援と県費で賄うとしたが、「既存路線の増収が見込まれる」としてJRにも一定の負担を求める意向も示した。実現の時期には言及しなかった。

県は、2020年の空港民営化に加え、22年度末の新ターミナルビル完成で空港利用客の増加が見込まれることからアクセス手段の改善に着手。JR延伸（事業費300億～400億円）、モノレール新設（2千億～3千億円）、熊本市電延伸（200億～300億円）の3案で事業費や所要時間、輸送量などを比較検討していた。

同日の県議会一般質問で、蒲島知事はJR延伸を選択した理由を「事業費が相対的に低く、採算が見込めてより早期に実現できる可能性が高い」と強調。三里木駅からの分岐とした点については、県民総合運動公園を経由させることで、大規模イベント時の観客輸送が課題だった同公園へのアクセス改善も図れるとした。自民党の松田三郎氏（球磨郡区）への答弁。

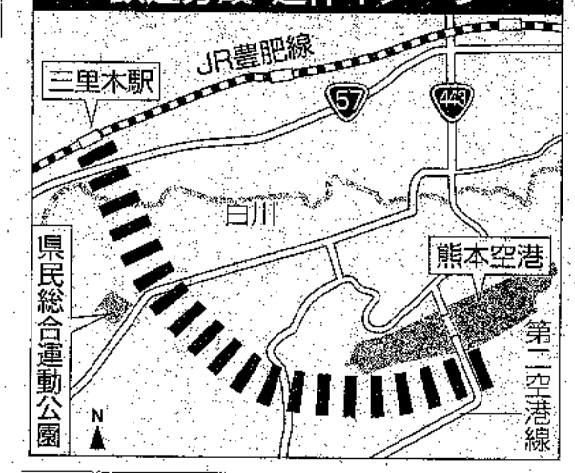
県は、12日以降に開かれる県議会特別委員会や常任委員会で、需要予測や導入効果など詳細を公表するとしている。

（並松昭光）



県がJR豊肥線の分岐・延伸によるアクセス改善を検討している熊本空港周辺。右奥は県民総合運動公園＝2017年4月

空港アクセスで県が検討する鉄道分岐・延伸イメージ



熊本空港アクセス改善　知事答弁のポイント

- 「鉄道延伸」は採算が見込めて、早期に実現できる可能性が高い
- JR豊肥線三里木駅から分岐、県民総合運動公園を経由するルート
- 整備主体は県を中心に設立する第三セクター。運行をJR九州に委託
- 事業費負担で、JR九州に「最大限の協力」を求める

要請あれば　真摯に対応

JR九州の青柳俊彦社長の話　以前から話は聞いていたが正式な協議はまだない。協力要請があれば真摯に受け止め、対応したい。

30.12.6.K

熊本空港　JR豊肥線延伸案

新ビル見据え　議論急ぐ

解説

熊本空港（益城町）のアクセス改善に向け、蒲島郁夫知事が5日の県議会で「JR豊肥線延伸」案を表明した背景には、空港民営化に伴う新ターミナルビルの完成を4年後に控え、議論を急ぐ狙いがある。【1面参照】

蒲島知事は、空港を熊本地震で打撃を受けた県経済の浮揚をけん引する「創造的復興のシンボル」と位置付ける。特に、民営化や空港アクセスの改善をその起爆剤として実現に強い意欲を示してきた。

国土交通省が進める民営化手続きでは、来年3月に三つの企業グループの中から運営権者が決まる見通しだ。運営権者が国内線と国際線を一体化する新ターミナルビルの建設を担うため、アクセス改善の整備方針を早く示す必要にも迫られていた。

この日の県議会で、知事は「（延伸案は）採算が見込める」と自信を見せた。ただ、三里木駅からの延伸は2005～07年度に県が一度検討し、採算面から見送った経緯がある。菊陽町など豊肥線沿線では人口集積が進み、17年度の空港利用者も過去最高の334万人を記録したが、費用対効果や収益性など具体的で丁寧な説明が欠かせない。

県が、モノレール新設や熊本市電延伸を含む3案の事業費試算を公表したのは9月県議会だ。その後、公の場での議論はほとんどないまま、今回結論を絞り込んだ。熊本地震からの復旧・復興が途上にある中、延伸事業は400億円にも上る巨額の公費支出を伴う。議論を急ぐばかりでは県民の理解は得られない。

（並松昭光）

三里木ルート380億円

県試算　ＪＲにも負担求める

豊肥線　空港延伸案

県は12日、熊本空港（益城町）へのアクセス改善策として実現を目指すＪＲ豊肥線三里木駅からの分岐・延伸について、概算事業費を約３８０億円とする試算を明らかにした。既存路線の増収が見込まれるＪＲ九州にも事業費の一部負担を求める方針で、年内にも協議を始める。

同日の県議会特別委（県民負担とせず、民間で、山川清徳企画振興部長は「すべて国民、一不退転の覚悟で（ＪＲとの）協議に臨む」と強調。ＪＲ側には開業後に、事業費分の負担を毎年求める方向で調整する。

また県は完成時期について「一般的には10年かかる」としながらも、短縮を目指す考えを示した。

事業の枠組みでは、鉄道施設の整備と運営の主体を分ける「上下分離」ではなく、県が中心に設立する第三セクターが整備・運営を担い、運行をＪＲに委託する方式で検討する。

特別委では、三里木と原水、肥後大津の各分岐駅ごとの事業効果を比較した結果を公表。三里木ルートは新線整備距離が約10キロと最長で、事業費も最高額だったが、県民総合運動公園付近に中間駅を新設することで、１日の利用人数が６９００人と最も多くなるとした。

一方、原水、肥後大津の各ルートは、中間駅の新設が必要な集客施設がない上、トンネル工事による事業期間の長期化などの懸念がある。このため大部分を高架にする三里木ルートの事業効果が最も高いと説明した。

また、三里木ルートではＪＲ熊本駅―空港間の所要時間は最短約38分で、リムジンバス（約60分）から大きく短縮できるとした。

特別委では、委員から「（２０２２年度末完成の）新ターミナルビルの設計に、新駅を位置付けられるよう検討を前に進めてほしい」との要望や「県民に事業目的や効果を説明する場が必要」との意見が出た。

（並松昭光）

鉄道延伸のルート比較

		三里木ルート	原水ルート	肥後大津ルート
新線整備延長		約9.5～10.0キロ	約6.0～6.5キロ	約6.5～7.0キロ
中間駅		中間駅を設置	中間駅なし	中間駅なし
所要時間	（熊本駅～空港駅）	最短約38分	最短約38分	最短約42分
	（分岐駅～空港駅）	約12分	約8分	約8分
概算事業費		約380億円	約330億円	約330億円
1日の概算需要量		約6900人	約5900人	約5800人
留意点		総合運動公園や運転免許センターへのアクセスが向上する。大部分は高架構造	空港の滑走路直下を通るトンネル構造。滑走路運用に影響しない工法が必須	トンネル区間が長くなり、事業費増加や長い事業期間を要するおそれ

費用対効果の十分な検証を

社説

ＪＲ豊肥線延伸

熊本市中心部から熊本空港（益城町）へのアクセス改善策として、蒲島郁夫知事はＪＲ豊肥線の延伸を目指す方針を表明した。三里木駅（菊陽町）から分岐して県民総合運動公園（熊本市）を経由するルートを念頭に置いており、今後、ＪＲ九州などと協議を深めていくという。

県は、長年の懸案だった空港アクセス問題を前進させるため、豊肥線延伸とモノレール新設、熊本市電延伸の３案について、事業費や所要時間、輸送量などを比較検討してきた。

豊肥線延伸は過去にも検討され、県自らが「採算を見込めない」と凍結した経緯があるが、知事は「事業費が相対的に低く、採算が見込めてより早期に実現できる可能性が高い」と判断した。

知事がこのタイミングで改善策を示した背景には、国が熊本空港の民営化手続きを進めていることがある。２０２２年度には、入札で選定された民間の運営事業者によって新たな空港ターミナルビルが完成する予定だ。

空港利用者の一層の増加が見込まれる中、アクセス改善は避けて通れない課題だ。空港の活性化によって観光などへの波及効果が期待される一方、知事には空港を、熊本地震で打撃を受けた県経済を牽引する創造的復興のシンボルにしたいとの思いも強いようだ。

県によると、三里木駅から熊本空港までの延伸部分の鉄道施設については、県を中心に設立する第三セクターが整備を担い、運行はＪＲに委託する方式を想定。約３８０億円と見込まれる事業費については国の財政支援と県費で賄うとともに、ＪＲにも一定の負担を求める考えだ。

熊本駅など熊本市中心部と空港とを結ぶ上で、何より重要なのは定時性の確保だ。現行のリムジンバスでは朝夕を中心に交通渋滞の影響を受けやすいが、鉄路は定時性に優れており、速さも期待できる。ただ、単線の豊肥線で移動時間の短縮効果を「最大化」するには、途中駅での行き違い施設の増設なども必要となろう。

旅客需要の底上げも欠かせない。単に路線の延伸という「線」ととらえず、都市圏交通全体のありようも見据えた「面」的な発想で考えたい。

豊肥線の延伸には巨額の公費投入が見込まれ、費用対効果を十分に検証する必要がある。県財政に与える影響や県経済への波及効果などを見極めながら、議論を進めてもらいたい。

一方、空港利用者の多くが車での移動に頼っている現実を踏まえれば、鉄道ばかりでなく道路整備も欠かせまい。

蒲島知事は先日の県議会で国道57号（東バイパス）の渋滞解消に向け、国や熊本市と具体的な対策を検討する場を新設する考えを示した。主要交差点の立体交差化などが議論されるとみられるが、併せて県道熊本益城大津線（第二空港線）の渋滞対策に取り組むなど、道路環境改善によるアクセス向上も検討すべきだろう。

空港延伸

肥後大津分岐を希望

JR社長、実現は前向き

JR九州の青柳俊彦社長は20日、熊本日日新聞社とのインタビューで、県が打ち出した豊肥線の熊本空港への分岐・延伸案について「前向きに県と協議し、いい方法を確立したい」と実現に意欲を示した。ただ分岐駅については三里木（菊陽町）を最有力とする県と異なり、肥後大津（大津町）を希望した。

豊肥線の熊本空港への分岐・延伸案について「いい方法を確立したい」と意欲を示すJR九州の青柳俊彦社長＝20日、福岡市

豊肥線の延伸は、熊本市中心部と空港の交通の利便性を高めるため、蒲島郁夫知事が5日に実現を目指す考えを表明した。

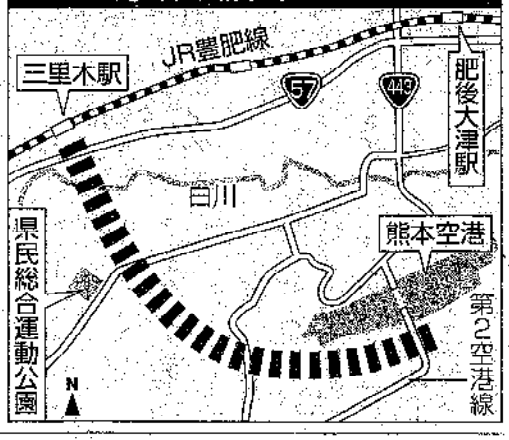
青柳社長は「鉄道がある方が空港の利用が伸びる、と以前から知事に申し上げてきた。需要想定やルートについて意見交換した上で、われわれができる協力はきちっとしていきたい」と述べた。

一方で豊肥線は単線のため、延伸で乗客が増えても運行本数の増加には限界がある。「複線化などは大きな投資が必要。そうした点を合めて県と議論し、態勢づくりを進めなくてはいけない」と指摘した。

県が念頭に置く三里木での分岐については、熊本市方面と結ぶ近郊区間の終点である肥後大津への運行本数を減らしたり、車両を増やしたりする必要があると懸念。「輸送面から考えると、肥後大津の方がやりやすい」とし、運行事業者としての意見を出した上で実現に向けた検討を県とともに進めていく考えを示した。

県が求める事業費の一部負担については「コストと効果の見合いで考える。われわれも納得できる案ができればいいと思う」と語った。（小林義人）

県が検討するJR豊肥線の分岐・延伸イメージ



三里木？ 空港延伸 分岐駅 肥後大津？

JR九州意向後押しへ

県表明案に期待高まる

大津町

菊陽町

アングル'19

熊本市中心部から熊本空港（益城町）へのアクセス改善策として、県がJR豊肥線・三里木駅（菊陽町）からの分岐・延伸案を表明し、JR九州と正式協議に入った。本年度中の合意を目指しており、菊陽町では「町の発展につながる」と期待が高まる。「阿蘇くまもと空港駅」の愛称を持つ肥後大津駅がある大津町では落胆が広がる一方、「肥後大津からの分岐を諦めない」との声も出始めている。

県の延伸案は、三里木で分岐し、県民総合運動公園（熊本市）を経由するルート。菊陽町の後藤三雄町長は「実現すれば町南部のにぎわい創出、交流人口の増加も見込める」と期待を膨らませる。三里木区の藤田英也区長(71)も「県や町と歩調を合わせて、地域活性化につなげたい」と歓迎する。

当初、三里木での分岐を中心に協議が進むとみられたが、JR九州の青柳俊彦社長は輸送面から肥後大津での分岐を希望することを表明。大津町では諦めムードから一転、肥後大津分岐の実現に向けた動きが加速しそうだ。

「町の振興に拍車がかかる」。家入勲町長は町単独の住民説明会を開く方針で、JR九州の意向を後押ししたい考えだ。

背景にあるのが、三里木分岐は「運行本数が減り、肥後大津の利用者減につながるのでは」という懸念。豊肥線は単線のため、運行本数の増加には限界がある。複線化が考えられるが費用などの面で難しく、肥後大津止まりの運行本数が減る可能性もある。

家入町長は「町内には三つの県立学校があり、通学の利用者も多い。運行本数が減る事態は避けなくてはならない」と強調する。菊陽町の後藤町長も「菊陽町から大津町への通勤・通学は多い」。肥後大津までの運行本数維持については両町の考えは一致する。

JR九州によると、2017年度の肥後大津の駅別乗車人員は、同社管内上位300駅中75位で、県内では玉名に次ぐ7番目。駅から空港まで無料で結ぶジャンボタクシー「空港ライナー」の利用者も順調に伸びており、昨年度は11月末時点で7万人を超えるなど、過去最多の一昨年を上回るペースだ。

大津町区長会の西本哲治会長(69)は「空港ライナーの状況を考えても、県に肥後大津分岐の検討をお願いしたい。町の発展のためにも諦めない」と訴える。

三里木か、肥後大津か―。県とJR九州は2019年度に事業化の検討を本格化させることにしており、分岐点を巡る議論が活発化するのは必至だ。（丁将広、田端美華）

「阿蘇くまもと空港駅」の愛称を持つJR肥後大津駅。熊本空港への無料ジャンボタクシー「空港ライナー」（中央）も発着する＝大津町

熊本空港への分岐・延伸が検討されているJR三里木駅＝菊陽町

大政第５９８号
平成３１年１月１０日

各　位

大津町長　　家入　勲
大津町議会議長　桐原　則雄
（公　印　省　略）

阿蘇くまもと空港へのアクセス改善についての住民説明会の開催について

平素より大津町の交通行政に対し、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。大津町ではこれまでビジターセンターをはじめとする肥後大津駅南口の整備や空港ライナーの運行、駅名の愛称化など、肥後大津駅を空港アクセスの拠点とした整備事業に取り組んでまいりました。

そのような中で、昨年１２月に熊本県がＪＲ豊肥線を三里木駅から分岐して延伸する案を軸に検討することを表明し、ＪＲ九州との正式協議に入ることとなりました。

そこで、大津町としてもこの空港アクセス改善について、町民や関係団体等に現状をご説明し、ご意見やご提案をいただく場を設けたいと思います。

つきましては、説明会を下記のとおり開催しますので、皆様のご参加をお願いいたします。

記

１、日　時　　平成３１年１月２４日（木）　１４：００から

２、場　所　　大津町生涯学習センター（文化ホール）

３、議　題　　（１）これまでの町の取り組み状況
（２）熊本県の空港アクセス改善案の説明と町の対応について
（３）意見交換、質疑応答等
※内容は変更となる場合があります。

連絡先
大津町役場 総合政策課 企画政策係
担当　　田上・小田
電話　　０９６－２９３－３１１８
FAX　　０９６－２９３－４８３６
E-mail：sougou@town.ozu.kumamoto.jp